

教育相談だより 1・2月号

平成29年度 郡山商業高校 生徒指導部教育相談係

検定や学年末試験、大雪が降る天候など落ち着かない1月をお過ごしのことでしょう。今回は「縁を生かす」というテーマのお話を掲載いたします。ゆっくりお読みいただき、何かをじっくり考えていただく機会になれば幸いです。

○縁を生かす

先生が5年生の担任になった時、一人服装が不潔でだらしなく、どうしても好きになれない少年がいた。中間記録に先生は少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。

ある時、少年の一年生の記録が目にとまった。「朗らかで、友達が好きで、人にも親切。勉強も良く出来、将来が楽しみ」とある。

間違いだ。他の子の記録に違いない。先生はそう思った。

二年生になると「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する」と書かれていた。

三年生では「母親の病気が悪くなり疲れていて、教室で居眠りする」後半の記録には「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる」とあり、四年生になると「父は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子供に暴力を振るう。」

先生の胸に激しい痛みが走った。

ダメと決め付けていた子が突然、悲しみを生き抜いている生身の人間として、自分の前に立ち現れてきたのだ。先生にとって目を開かれた瞬間であった。

放課後、先生は少年に声をかけた。

「先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたも勉強していかない？分からないところは教えてあげるから」少年は初めて笑顔をみせた。

それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。

授業で、少年が初めて手を上げたとき、先生に大きな喜びが沸き起こった。

少年は自信を持ち始めていた。

クリスマスの午後だった。少年が小さな包みを先生の胸に押し付けてきた。後であけてみると、香水の瓶だった。亡くなったお母さんが使っていた物にちがいない。先生はその一滴をつけ、夕暮れに少年の家を訪ねた。

雑然とした部屋で独り本を読んでいた少年は、気がつくとも飛んできて、先生の胸に顔を埋めて叫んだ。「ああ、お母さんの匂い！今日は素敵なクリスマスだ」

六年生では少年の担任ではなくなった。

卒業の時、先生に少年から一枚のカードが届いた。

「先生は僕のお母さんのようです。そして今まで出会った中で一番素晴らしい先生でした」

それから六年、またカードが届いた。

「明日は高校の卒業式です。僕は五年生で先生に担当してもらって、とても幸せでした。おかげで奨学金をもらって医学部に進学することが出来ます。」

十年を経て、またカードがきた。

そこには、先生に出会えた事への感謝と、父親に叩かれた体験があるから患者の痛みが分かる医者になると記され、こう締めくくられていた。

「僕はよく五年生のときの先生を思い出します。あのまま駄目になってしまう僕を救って下さった先生を神様のように感じます。医者になった僕にとって最高の先生は五年生の時に担任して下さいました先生です」

そして一年。

届いたカードは結婚式の招待状だった。

「母の席に座って下さい」

と一行、書きそえられていた。



時間は音符である、という話をある先輩から聞きました。例えば、ベートーヴェンの「運命」の出だし。並んでいる音符は同じでも、カラヤンが、小沢征爾が、フルトヴェングラーがタクトを振れば、それぞれに違います。同じように、時間も使う人によって異なってくる、というのです。なるほどなあ、と感じ入ったことでした。

そしてそれは、場や環境も同じではないかと思いました。与えられた場や環境は同じでも、人がそれをどのように使うかによって、大きく違ってくるのではないのでしょうか。

たった一年間の担任の先生との縁。その縁に少年は無数の光を見出し、それを拠り所として、それからの人生を生き、ここにこの少年の素晴らしさがあるのです。

人は誰でも無数の縁の中に生きています。無数の縁に生まれ、人はその人生を开花させていく。大事なものは、与えられた縁をどう生かすかです。(藤尾秀昭)

(出典：致知出版社「心に響く小さな5つの物語」藤尾秀昭著 より)

○1・2月のSC来校日

1月 17日(水) 22日(月) 29日(月)

14:00~18:00

2月 7日(水) 19日(月)

14:00~18:00



【今月のことば】

一所懸命、悔いのない瞬間、瞬間を生きていく。くよくよしていてもはじまらないから、シンプルに物事を考える。

高田明

(ジャパネットたかた創業者)

